

守ろう、支えよう、大好きな^{ふるさと}故郷



はじめに

西尾市は、平成26年5月に愛知県が公表した南海トラフ地震の被害予測調査結果において、長い海岸線と軟弱な地盤を抱えていることなどから、県内で最も深刻な被害が予測されています。特に津波被害が危惧されており、本市では平成30年3月に「津波浸水避難シミュレーション（現在：津波避難計画）」を作成し、市民の皆様には、津波発生の際は津波浸水想定区域外へ避難することを推奨してきました。

そのような中、平成30年度より愛知県教育委員会から本事業の委託を受け、学校安全に向けた取り組みを進めてきました。こ

れまでモデル地域として、広い範囲で津波被害が危惧されている「一色地区（平成30年度）」「吉良地区（令和元年度）」「寺津地区（令和2年度）」「福地地区（令和4年度）」を、地震による被害とともに、風水害において甚大な被害が想定されている「東部地区（令和3年度）」「幡豆地区（令和5年度）」を設定しました。令和6年度は、津波浸水想定区域を保有し、風水害（内水氾濫、外水氾濫）において甚大な被害が想定され、地震津波における指定避難所になっている学校を含む「平坂地区」をモデル地域とし、命を守るための防災活動を進めてきました。

事業の名称

昨今、全国各地で災害が発生しており、これまで以上に防災に対する意識強化を図るとともに、学校安全に係る取り組みをさらに進めていくことは重要課題となっています。一方で、災害に対して過剰になりすぎることは、子どもたちの故郷に対する愛着が薄れてしまうことにも繋がりがかねません。中には、この先何十年

と地元で生活し、地元で活躍する子どもも多くいるはずです。そこで、「防災」に関する学習を通して、有事の際は故郷を守り、支えていける防災リーダーとして活躍できる人材となしてほしいという願いを込め、本事業の名称を「**守ろう、支えよう、大好きな故郷（ふるさと）**」としました。

事業の主な目標

・児童生徒が風水害や地震、津波に対する正しい知識を身に付けるとともに、災害発生時には**防災リーダーとして積極的に活動できること**をめざす。

・児童生徒が取り組んだ成果等を自ら外部に発信していくことで、**学校間、地域間の防災に対する意識の差の解消**をめざす。

モデル地域及び拠点校の設定

▶モデル地域／平坂地区（中学校1校・小学校3校） ▶拠点校／平坂中学校

令和5年3月に発行された「西尾市洪水ハザードマップ」によると市域のおよそ3分の1が浸水し、全人口約17万人のうち約14万人が避難する想定となっています。さらに近年の台風の大型化や線状降水帯による大雨の頻発や長期化などからも風水害に対する備えが必要です。また、「西尾市津波ハザードマップ」によると、西尾市において津波災害によって洪水同様およそ3分の1が浸水する想定となっております。現在、市内の学校の多くは、児童生徒が在学中であれば高層階へ垂直避難することになっています。しかし、学校にいない場合であれば、原則として津波浸水想定区域外へ避難することになっています。それらを踏まえ、風水害や津波被害などの幅広い知識や避難方法を周知・習得する必要がある平坂地区をモデル地域に設定し、事業を進めることにしました。また、自らの命を守ること（自助）はもちろん、「守られる側から守る側へ」という意識を育てること（共助）が大切であると考え、防災リーダー育成の観点から平坂中学校を拠点校とし、平坂中学校の1年生を中心に防災活動を進めていきました。



実践委員会の設置

年3回の実践委員会（**学校関係者、地域団体、行政で組織**）を通して、より効果的な活動方法などについて意見交換をしたり、避難訓練など防災に関わる取り組みにおける各校の課題などを共有したりすることができました。

防災教育アドバイザー 近藤ひろ子氏（JICA 防災教育担当専門家）、平坂地区自主防災会連絡協議会会長、平坂中学校PTA会長、西尾警察署、西尾市消防本部、平坂中学校長及びモデル地域4校教員、県教育委員会、市教育委員会、危機管理課



実践委員会の様子

モデル地域4校での「防災講話」

小中学生に、自然災害の恐ろしさ、西尾市や各校区における被害想定、小中学生が発災時に自宅や学校などで行えること、西尾市の災害に対する備えなどについて紹介するため、危機管理課職員による防災講話を実施しました。

動画や写真、資料などを使い説明するなかで「いざという時に『やってあげばよかった』ではなく『やっておいてよかった』と実感できるような防災学習を進めてほしい。」「思うだけ・考えるだけではなく、実際に備えたり、家族と話し合ったりするなど自分事として行動にうつしてほしい」などのお願いに対して真剣に耳をかたむける姿を見ることができました。



中畑小学校



平坂小学校



矢田小学校



平坂中学校

児童生徒の感想

- ・話を聞いて、災害はどうしても防ぐことができないので、これから地震や津波が起きた時にどうすればいいのか、食料がなくなったときにどうすればいいのかなど学んでいきたいです。
- ・南海トラフ地震による津波で西尾市の多くが浸水するのでとても不安になりました。西尾市の取り組みがたくさんあるけど、やっぱり自分の家で自分のために備えたいです。

- ・映像を見て地震の恐ろしさを改めて実感することができました。「自分の命は自分で守る」ということを心がけながら、人の役に立てる人にもなりたいです。自然災害を他人事だと思わず、しっかりと向き合い、どう避難したらいいか、どこに避難すればいいのかなど家族で話したいです。

モデル地域4校での「近藤ひろ子防災教育アドバイザー防災講話」

風水害や地震・津波などの災害に関する正しい知識を身につけるため、近藤ひろ子防災教育アドバイザーによる防災講話を実施しました。防災とは「命を守る」だけではなく、「みんなと一緒に生き延びていく」ことも大切であるとご示唆いただきました。また、自然災害に対する対処方法や必要な備えについて、覚えやすい合言葉や「い・つ・も」「お・か・に」ソングで紹介していただいたり、様々なアイデアも紹介していただいたりしました。最後に助け合える関係をつくるためには常日頃から「笑顔であいさつすること」が大切であることを教えていただいたり、「中学生は地域の大きな力！」と熱いメッセージを送っていただいたりしました。



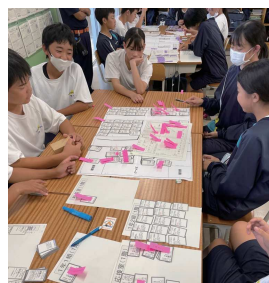
児童生徒の感想

- ・私は紙芝居を見て、命を守ることとはとても大切で、地震はいつ起こるか分からないと感じました。
- ・命を守る、みんなと一緒に生きのびていくということが特に大切だと分かりました。
- ・一番心に残ったことは「いつもおかにソング」です。手話もあって耳の聞こえない人にも教えてあげられるからです。
- ・いつまでも助けてもらう存在ではなく、自分から動いてだれかを助けられる存在になりたいと思いました。

- ・避難する前、するとき、したときでやれることがたくさんあることが分かりました。そして、いろいろなアイデアを周りの人に伝えていきたいと思いました。
- ・中学生だからこそ、自分やみんなの命を守るためにできることがたくさんあることが分かりました。
- ・災害が起きても「コミュニケーションと笑顔」を忘れず、地域の人と協力して生き延びていくことが大切だと感じました。

平坂中1年生「HUG学習（避難所運営ゲーム）」

様々な事情を抱えた避難者を適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験しました。避難してきた方々の状況を考慮し、より過ごしやすい避難所作りをめざして実践することができました。町内会長や消防団員の方々も参加してくださり、大人・女性・子どもなど様々な立場の考えを聞きながら、避難所運営について考えることができました。



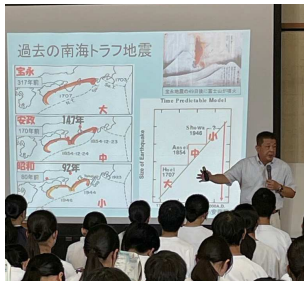
生徒の感想

- ・避難所に来る人たちは、いろいろな事情を持った人がいるので、それぞれの人たちに配慮して、配置を考えないといけないからとても大変でした。
- ・自分が避難所を運営する立場になったら、一人一人に寄り添って避難所が運営できるようにしたいと思いました。

- ・付箋にメモを書いて、どんな人たちを配置するのか分かりやすくしていたグループがあったので、とてもいいなと思いました。私たちのグループは、探すのに少し時間がかかってしまったのでメモして分かりやすくしておけばよかったなと思いました。

▶ 平坂中 1 年生「防災講演会」

発災時や被災地支援として、自分たちにできることを考える機会とするために、災害救援 NPO 法人レスキューストックヤード代表理事の栗田暢之氏を講師としてお招きし、防災講演会を実施しました。被災者の声や、中学生ボランティアの活動などの実態を教えてくださいました。「助けられる側から助ける側に」「励まされる側から励ます側に」という願いを伝えてくださりました。



生徒の感想

- ・今回の講演会で、地震や津波の映像を見て、災害の恐ろしさを改めて感じました。
- ・「自分の命」を守るためにどうしていきたいか明確にすることができました。次はそれを実行、発信できるように努力していきたいと思います。
- ・被災された方たちの話を聞いて、とてもつらい気持ちになった。

たけど、その悲しいことを最小限にするには、私たち一人一人が防災に関心をもち、日ごろから備えることが大切だと感じました。実際に災害が起きてしまった時には、暗い気持ちに負けず、ボランティア活動や元気の出る声かけなど、自分にできることを考えて積極的に行動していきたいと思います。

▶ 平坂中 1 年生「災害クッキング講座」

名古屋文化短期大学の山田実加教授をお招きし「防災を楽しむこと」をテーマに、災害時の食に特化した講座を行い、防災意識の向上を図ることを目的に実施しました。

災害時に活用できる調理方法であるバック・クッキング法（ポリ袋とカセットコンロを使用）を実演していただき、生徒たちに和風の蒸しケーキをふるまってくださいました。

生徒たちは、火を使わなくても調理できる災害食（サバの味噌煮とワカメ和え、誰でもできる簡単ポテサラ）作りに取り組みました。「災害時に温かいものを食べることができれば体も心もなごみます。また、洗い物も少なく、簡単に調理ができるので、日常にも取り入れてみましょう。」とご指導いただきました。



生徒の感想

- ・今までは、避難所や避難方法ばかりを気にしていたけど、今回の話を聞いて非常食や災害食の大切さを知りました。家には3日分以上の非常食があるか確認したいです。
- ・本当に災害が起きた時には、つらい気持ちになるけど、おいしいご飯を作ること前向きな気持ちになりそうだと思います。
- ・防災リュックの中身を確認して、消費期限の切れそうな食料や水があれば早めに食べて買い足して、ローリングストックできるように気をつけたいです。

- ・今回の講座で、防災を日常に取り入れるという考え方があることを知りました。
- ・災害で電気、ガス、水道、スーパーなどが停止してしまっても、温かく栄養バランスの取れた食事をとるために、カセットコンロを用意しておきたいと思いました。
- ・防災を仲間と協力しながら楽しく学ぶことができました。「知っている」だけでなく「できる」ようになって嬉しかったです。災害時には「助け合い」と「自分ができることを一つでも増やすこと」が大切だと感じました。



▶ 平坂中 1 年生「防災講座」

●救出救護技術講座

西尾市消防本部署員と地元校区の消防団員を講師としてお招きし「救出救護技術講座」を行いました。災害発生時に、一人でも多くの方の命を守るための救出救護技術として「簡易担架による搬送法」「ロープ結索」「三角巾包帯法」を学びました。



搬送法



ロープ結索



三角巾包帯法

●避難所簡易グッズ作り講座

近藤ひろ子防災教育アドバイザーを講師に招き「避難所簡易グッズ作り講座」を実施。避難所などで快適に過ごせるよう、広告と新聞紙を活用した簡易スリッパの作り方を学びました。また、避難所に配備してある簡易テントと簡易ベッドの設営を、危機管理課職員指導の下で行いました。



簡易スリッパ作り



簡易テント設営

生徒の感想

- ・今回学んだことは、「中学1年生でもやれることはたくさんある」ということです。あまり力がなくても料理ができなくても、新聞紙でスリッパを作ってあげたり、ロープを結んで服を干してあげたり、テントを組み立てたりと、やることはたくさんあると学びました。
- ・私は、「自分や家族を守るためにすること」と「みんなで助け合うこと」の大切さに気づきました。新聞紙でのスリッパと三角巾での止血は、どちらも自分や家族を守るために必要だと思いました。ロープや担架は、人の命を救うために必要だけど、運ぶ人がいないとできないので、クラスのみんなや地域の人たちと協力していくことが大切だと思いました。

- ・「身の周りのものでできることがたくさんある」ということを学びました。新聞紙でスリッパを簡単に作れたし、ロープも意外と簡単に縛ることができました。今日習ったこと以外でも、かぶとや紙飛行機を作って子どもを楽しませたり、ロープで人を引っ張り出したりすることもできそうだと思います。
- ・このような誰でも簡単にできることを、横のつながりを通してたくさんの人に伝え、自分たちにできることを増やしていけば、より多くの命が助かると思うので、積極的に行動していきたいです。

▶ モデル地域 小中合同防災学習

中学生がそれぞれの出身小学校へ赴き、「防災講座」で学んだ「救出救護技術」と「避難所簡易グッズ作り」を小学生に教えました。



簡易スリッパ作り



簡易テント設営



ロープ結索



児童生徒の感想

●児童の感想

- ・もしも災害が起きた時、私は何をしたらいいかわからなかったけど、平坂中学校の1年生がロープの本結びと巻き結びや、テントとベッドの組み立て、新聞紙でスリッパを作るという3つのことを教えてくれたので、本当に災害が起きたら、その3つのことをやろうと思いました。
- ・今までも家族と災害が起きた時について話し合ったことがあるけど、これからも災害が起こる前に防災について家族とたくさん話したいです。
- ・先生から「楽しいだけで終わらないでください」と言われましたが、いざ防災講座をしてみると、学べることだらけだったので、とてもよい機会だなと思いました。もし災害が起ころうとしても、みんなと力を合わせて、学んできたことを活用したいです。そして、役立つことを優しく丁寧にゆっくり教えられる中学生の子のようになりたいです。
- ・新聞紙でスリッパが作れることを知ってとても驚きました。新聞紙は災害の時にとても役立つと思ったので、今度、家で自分のオリジナル防災グッズを作ってみようと思います。

●生徒の感想

- ・最初は不安だったけど、終わった後、「楽しかった」「よく分かった」「周りの人にも教えてみる」と言われてとてもうれしくなりました。
- ・4年生の子との絆も深まった気がします。
- ・教える前までは、なんとなく自分の中で理解していると思っていたけど、小学生に説明してみると上手な説明ができず、まだ自分には学ぶべきことがあると改めて感じました。
- ・次は一緒に通学路の危ない場所を見に行くなど、情報共有し共感しあいたいと思いました。
- ・今回のように防災の知識を広めていくことが大事だと思います。知っている人が知らない人に教え、それがどんどん広がっていけば、町全体が防災の知識であふれ、実際の災害時も困る人が少なくなると思います。町全体を防災の知識であふれさせる取り組みの第一歩を自分たちが踏み出せてよかったです。
- ・小学生に教えたことでさらに理解が深まりました。
- ・本当に災害が起きてしまっても、この子たちも私たちと一緒にこの地域を支えて守っていけそうだなと感じました。

防災学習のまとめ

本事業を通して学んだことについて、平坂中1年生が各自でまとめを作成しました。そして、地域にこの学びを広げるために、モデル地域4校の自主防災会などに一部配布しました。

防災学習を振り返って

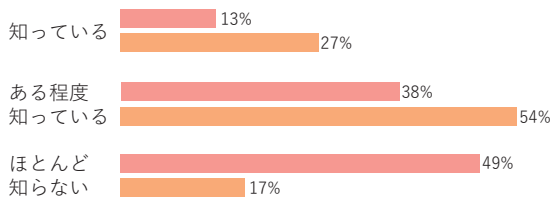
- ・中学生でもできること、中学生だからこそできることがたくさんあると分かりました。
- ・災害や防災が身近なものとして感じられるようになりました。
- ・防災の大切さをもっと地域に広めたいと思います。
- ・これからは「助ける側」として、地域の人たちを支えたいと思います。
- ・災害が本当に起きてしまったら、自分たちが引っ張っていけるようにしたいです。

モデル地域での防災アンケート

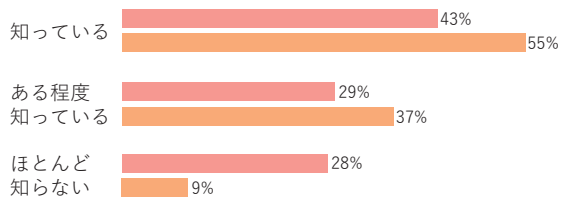
事業前後に実施した防災アンケート結果を比較

実施前 実施後

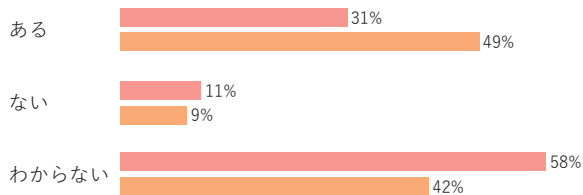
Q1. あなたの住む地域における、地震や津波、洪水などの災害における被害想定について知っていますか？



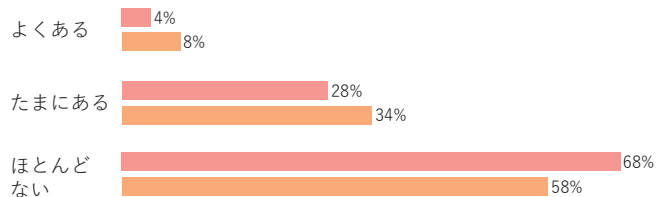
Q2. あなたの住む地域における、地震や津波、洪水などの災害に応じた避難場所や避難所を知っていますか？



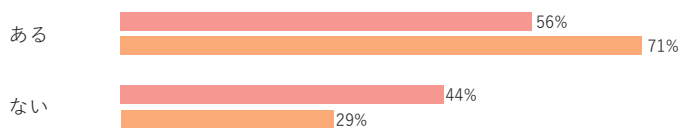
Q3. あなたの家では、災害時のために、備蓄品（物資や食料）を準備してありますか？



Q4. あなたは家族と、地震などの自然災害について話し合うことがありますか？



Q5. 災害時、あなたができることはありますか？



生徒が作成した「学習のまとめ」の一部はこちらからご覧いただけます。



近藤ひろ子防災教育アドバイザーや危機管理課職員による防災講話を受けて、地元における地震や津波、洪水などの災害に応じた被害想定や避難場所、避難所について知っているかに対して、「知っている」「ある程度知っている」と答えた児童・生徒の割合が増えました。学んだことを、他学年の児童・生徒や家族、地域へ広げていきたいです。

「備蓄品の準備をしている」と答えた児童・生徒の割合も増えました。この事業が始まり、家に備蓄品があるか確認したり、準備したりしたことが考えられます。このことから、本事業で学んだ「備えが大切」ということを実際に行動に移したことがわかります。

災害について家族と話し合う割合は、残念ながらおおきな変化が見られませんでした。そのうえ、半数以上の家庭で「災害について話し合う機会がほとんどない」との回答でした。災害はいつ起こるかわかりません。在宅中に発災することも考えられます。各家庭で防災意識を高め、災害について話し合う機会を増やして

いただきたいと思います。

「災害時にできることがある」と答えた児童・生徒の割合は、7割以上となりました。具体的な回答としては、防災講座で学んだ「スリッパ作り・テントの組み立て」や、災害クッキング講座で実践した「災害食を作る」、HUGで学んだ「避難所運営の手伝い」など、今まで学んできたことを実践できるという回答が多くみられました。

また、「外国語を翻訳して伝える・けが人の手当て・高齢者や妊婦などの補助・小さい子のお世話・笑顔で話しかけて励ます」など、自分のことだけでなく様々な事情をもった人たちのためにできることを回答したものもありました。

様々な活動を通して、多くの児童・生徒が、自分事として災害や防災と向き合うことができたと考えられます。そして、自分や家族の命、そして故郷を守るために、「自分にできること」を考えることができました。